

学校 Web の日常的更新のための Web サイト構造と教職員の協力体制
Website Structure and Teacher's Cooperative Framework for Frequent Updating of School Website.

菅原克彦 Katsuhiko SASAHARA 富山市立寒江小学校 SAMUE Elementaly School,Toyama	高橋 純 Jun TAKAHASHI 富山大学教育学部 Faculty of Education,TOYAMA Univ.	堀田龍也 Tatsuya HORITA 静岡大学情報学部 Faculty of Information,SHIZUOKA Univ.
清水悦幸 Yoshiyuki SHIMIZU 株式会社インフォサイン Infosigh Co.,Ltd.	伊藤博康 Hiroyasu ITOU 株式会社内田洋行 Uchida Yoko Co.,Ltd.	笹田 森 Shin SASADA

学校 Web の日常的な更新のために、Web のサイト構造を単純化すると共に、更新の義務化を図る、コンテンツのフォルダ管理を一任するなどの教員の協力体制を確立した。その結果、公開されるコンテンツが種類、量共に増加し、更新が頻繁でアクティブな学校 Web サイトを運営できた。

キーワード 情報公開，学校 Web，教職員の協力体制，サイト構造

1 問題

Web の開設によって学校におけるさまざまな情報を公開する学校は増えてきている(文部科学省、2003)。社会の情報化が進み、アクセスが容易になれば、学校 Web は単に開設するだけではなく、内容の充実を期待されることになる。

しかし、学校 Web の更新の多くは、一部の担当者によって行われている。そのため、校務が立て込んでくると更新頻度が下がったり、フォルダ構造が複雑化していて転勤等でスタッフが入れ替わると、なかなか維持されなくなったりするという問題がある。

石塚ら(2004)は、社会的に高い評価を受けている学校 Web の内容と運用を調査した。これらの学校 Web のうち、97%が、児童の学習活動を掲載している。これらの情報は、全学年にまたがる上に速報性を

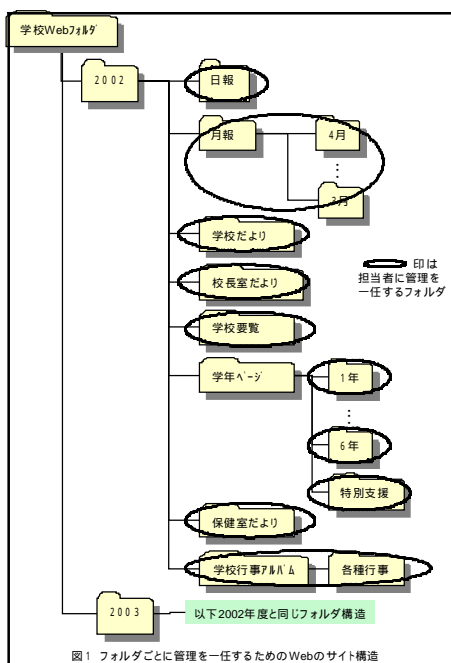
期待される項目であり、週1回以上の頻度で更新を行っている学校 Web が多数存在する。これら学校の Web サイトのように、優れた情報を継続的に発信するためには、できるだけ多くの教員が更新に関わり、容易に更新できるような Web サイトの構築を必要とされることが予想される。

本研究では、更新が容易で、教員の協力体制を得やすい Web サイトの構造と協力体制をモデル化した。実際にモデルを適用した結果、学校 Web の日常的な更新がどのように進められたかについて報告する。

2 更新の容易なWebサイトのモデル化

日常的な更新体制を維持するには、Web 構造が複雑になることや、教員の協力体制が得られないことが問題になる。その2点を解消するために、更新が容易に行える学校 Web を構築するためのモデルを示す。

- 1) Web サイト構造の単純化(図1)
 - ・年度毎のフォルダの設置
 - ・下位階層では、Web サイトのコンテンツ1つにつき1フォルダを開設
 - ・内容ごとに各担当者を明示
 - ・学校 Web の TOP ページから、フォルダ内の TOP ページへのリンク
- 2) 頻繁に更新できる Web ページの開設
 - ・1枚の画像と短い文を使って短時間で更新できる日報的なコーナーの開設
- 3) 教員の協力体制の確立
 - ・Web の定期的更新の義務化
 - ・単純な Web 作成のための研修の実施



[表1]寒江小Webの発信内容と更新者

2002年4月	更新者	2004年3月	更新者
今日の寒江っ子(日報)	管理担当者	今日の寒江っ子(日報)	管理担当者(2名)
近頃の寒江っ子(月報)	"	近頃の寒江っ子(月報)	"
学校行事アルバム	"	学校行事アルバム	"
学校だより	"	学校だより	教頭
校長室だより	"	校長室だより	校長
5年生ページ	"(5年担任)	保健だより	養護教諭
		学校要覧	コンピュータ支援講師
		各学年ページ	各学年担任(7名)
		(1~6年、特別支援)	

印は担当者が直接ファイル転送を行うコンテンツ

[表2]以前に比べて更新に対するイメージは

簡単だと思う	9
変わらない	0
難しい	0
合計(人)	9

[表3]更新時に困ったこと、改善してほしいこと

- ・年度初めや学期初めに新規の更新をスタートするときに、最初のページを作るのが大変。
- ・書きたいことは決まっているのに、デザインや形式から考えなければならぬので、決まったパターンがあるとよい。

3 モデルの適用

モデルを基に、富山市立寒江小学校において教職員11名によるWebの更新を行った。モデルの適用により、学校Webが日常的に更新されるようになったことを確かめるために以下のようなデータを収集した。

- ・学校Webの発信内容と更新者の変化
- ・日報の更新頻度
- ・更新に携わった教員の意識アンケート

4 モデル適用の結果

・学校Webの発信内容と更新者の変化

初期には6項目だったコンテンツが、2年後には14コンテンツに増えた。また、初期には、Web管理担当者が単独で作成していたが、2年後には、校長、教頭、7名の担任、養護教諭の10名で作成するようになった。ファイルの転送を更新者が直接行うコンテンツも出てきた(表1)。

・日報の更新頻度

管理担当者が単独で更新していた日報的ページには、複数の担当者があてられるようになった。元々の管理担当者が6年担任となつて校務が立て込んだときにも、更新の頻度は

コンスタントに維持された。

・更新に携わった教員の意識アンケート

アンケートの結果によれば、教職員全員が、以前より簡単に更新できるというイメージを持つようになった(表2)。

5 考察

サイト構造を単純化すると共に、更新の義務化を図ったり、コンテンツのフォルダ管理を一任したりするなどの教員の協力体制を確立することによって、公開されるコンテンツが種類、量共に増加し、日常的に更新されるアクティブな学校Webサイトが運営できた。自分のフォルダ内に自分が作成したコンテンツの全てのデータをおくことによって、ファイルの管理をあまり意識することなく、Webの作成に専念できるようになった。

しかし、更新の頻度が上がるに連れて、問題も残された。更新が日常化すると、デザインを考える時間を省き、内容を表現する時間に当てたいと考えるようになる(表3)。既存のWeb作成ソフトでは、文字や写真などの画像処理が不可欠であり、その処理に時間を要することが、日常的な更新の足かせになっている。また、Web作成ソフト付属のテンプレートでは、学校で公開するコンテンツ項目としては不十分なため活用しづらい。

6 終わりに

学校Webの構造を単純化し、それに合わせた協力体制を作ることによって、学校Webの日常的な更新が可能になった。しかし、現状では公開するページが増えたときに、中間ページを生成したり、リンクを管理するのが難しくなる。今後、それらの問題を解決してくれるシステムの支援としてCMS(Content Management System)に注目したい。

[参考文献]

[1] 文部科学省(2003):「情報教育の実態等に関する調査結果」,同,pp.12

[2] 石塚文晴,森下誠太,堀田龍也(2004):「社会的に高い評価を受けている学校Webページに関する調査」,日本教育工学会研究報告集,JSET04-3, pp.33-38